

平成29年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	行動スイッチを引き起こす分子と神経回路の完全解明
研究代表者	飯野 雄一 (東京大学・大学院理学系研究科 (理学部)・教授) ※平成29年6月末現在
研究期間	平成29年度～平成33年度
コメント	<p>本研究は、モデル動物としての線虫の利点を十分に活かし、学習に伴う行動転換の分子機構と神経回路動態の完全解明を目指す独創性の高い研究である。最新の生体イメージング技術を駆使して全ての神経活動を同時に測定、追尾することにより、神経系のダイナミクスを分子・神経機構に基づいて明らかにする、優れた学術的意義を有する提案である。応募者はこの分野の世界的な研究者であり、実績も十分で着実な進展が期待できる。</p> <p>5年間で「完全解明」に到達できるのか、また、線虫で得られた結果がより複雑な神経系を持つ動物の脳機能の理解にどのように貢献できるかという視点が明確でないという懸念もあったが、基盤研究（S）として推進することが適当と判断した。</p>